



る う て る



2018年
10月
No.850

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教 「宗教改革501年 福音の表現者に」

日本福音ルーテル東京教会 牧師 関野和寛

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならぬ。」

(ヨハネによる福音書2:13-16)



か。私もこのキリストに出会い、そしてこんなキリストに救われた一人であった。そしてこのキリストに貰った自由を人々に届けたいと願っていた。だが気が付けば当たり前障りのない言葉で無難に福音を語り、できるだけ批判されずに教会を発展させるといふ調子のよ



試験翌日、抜け殻のようになつた彼らは再び聖書科研究室にやって来ました。「先生、昨日は応援ありがとうございました」と深々とお辞儀をし、ソファに座るも重苦しい空気が漂っていました。「俺たち、なんで負けたんだろ」「祈りが足りなかったのかな」。

そんなことない、と言おうとしたが、遮られる形で他の生徒が言いました。「いや、俺たちはたくさん祈ってきたよ。それでも負けたんだ。俺は今、悔しいけど、神様にこの悔しさを乗り越えろって言われている気がする」

宗教改革500年の時にあなたは何をしたらどうか？教会で色々勉強会や催しをしたであろう。そこでもう一つ質問をしたい。その機会を通してキリストの福音は教会の外に拡がったであろうか？

そして分かる人にだけ分かるというようにタコ壺化させていたように感じた。そして福音の評論家よりも福音の表現者でありたいと強く願った。主イエスもルターもまず神の言葉の表現者であった。ヨハネ福音書のイエスはその布教活動の冒頭から神殿の中で大暴れをします。

か。私もこのキリストに出会い、そしてこんなキリストに救われた一人であった。そしてこのキリストに貰った自由を人々に届けたいと願っていた。だが気が付けば当たり前障りのない言葉で無難に福音を語り、できるだけ批判されずに教会を発展させるといふ調子のよ

授業で手を焼くほど、やんちゃなサッカー部の生徒たちが聖書科研究室にやってきました。

「先生、今度試合観に来てよー今、俺たちすごい頑張ってるからさ。絶対に勝つよー先生が来たなら、神様も味方してくれる気がするよー！」

勝つか負けるかのスポーツの世界。優勝チーム以外は全てのチームが負けを体験します。しかしスポーツの厳しき、悔しきからも神様の声が聴こえることを、生徒から教えられました。

そのような問いと共に私はここ数年、福音を携え教会の外へ外へと向かうようにしてきた。

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

か。私もこのキリストに出会い、そしてこんなキリストに救われた一人であった。そしてこのキリストに貰った自由を人々に届けたいと願っていた。だが気が付けば当たり前障りのない言葉で無難に福音を語り、できるだけ批判されずに教会を発展させるといふ調子のよ

か。私もこのキリストに出会い、そしてこんなキリストに救われた一人であった。そしてこのキリストに貰った自由を人々に届けたいと願っていた。だが気が付けば当たり前障りのない言葉で無難に福音を語り、できるだけ批判されずに教会を発展させるといふ調子のよ

か。私もこのキリストに出会い、そしてこんなキリストに救われた一人であった。そしてこのキリストに貰った自由を人々に届けたいと願っていた。だが気が付けば当たり前障りのない言葉で無難に福音を語り、できるだけ批判されずに教会を発展させるといふ調子のよ

か。私もこのキリストに出会い、そしてこんなキリストに救われた一人であった。そしてこのキリストに貰った自由を人々に届けたいと願っていた。だが気が付けば当たり前障りのない言葉で無難に福音を語り、できるだけ批判されずに教会を発展させるといふ調子のよ

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行



GRECO: El Greco, The Purification of the Temple 1571-76, Institute of Arts, Minneapolis

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

その中で昨年とあるバーにて異業種間の交流会が行

教会手帳 2019

べんりな住所録付き

定価 1,100円

お求めは
北海道キリスト教書店 (TEL:011-737-1721/FAX:011-747-5979)
オアシスブックセンター (TEL:03-3370-9231/FAX:03-5350-7952)
静岡聖文会 (TEL:054-260-6644/FAX:054-260-5612)
名古屋聖文会 (TEL:052-741-2416/FAX:052-733-2648)
広島聖文会 (TEL:082-208-0022/FAX:082-208-0177)
キリスト教書店/ハレルヤ (TEL:096-372-3503/FAX 共用)
日本福音ルーテル教会事務局 (TEL:03-3260-8631/FAX:03-3260-8641)

発行 日本福音ルーテル教会



議長室から 大柴 稔

ア研究所に関わらせていただきます。それは2005年に起きたJR福知山線脱線事故を契機に設置された研究所で、グリーンフ(悲嘆)を抱える方々のためグリーンケア/スピリチュアルケアの

切ですが、まず自分が生育歴で体験してきた「悲嘆」を深く見つめてゆく必要があります。それを共感的な受容と傾聴を基調とするグループの中で共有してゆくのです。このことについては別の機

職の基本姿勢です。「か・え・な・い」とは「かざらず、えらぶらず、なぐさめず、いっしょにいる」ことです。悲嘆は人の五感を研ぎ澄ませてゆきますから、相手がどのような姿勢

か・え・な・い・心

各地で災害が続いていることに心を痛めています。尊い命を奪われた方々、被災された方々、救援活動に関わる方々のために、ご一緒に祈りを合わせたいと思います。

2014年の春から私は上智大学のグリーンフケ

専門家を養成する研究所です。私は自分の専門である臨床牧会教育の立場からスーパーバイザーの一人として大阪のサテライトに関わっています。ケアをするためにはまず自らケアされる経験が大

会に記したいと思います。が、今回は昨年7月に105歳で召され、長く研究所の名譽所長を務められた日野原重明医師の言葉をご紹介します。思います。それは「か・え・な・い・心」という対人援助

で自分に向かい合ってくるかを敏感に察知します。そのためにまず、飾らず正直に相手に向かい合う真摯さが求められます。そしてそこでは偉ぶらず、上から目線でもなく、謙虚に相手に向かい

合うことが求められるのです。

三番目の「慰めない」という言葉に私は一番ハッとしました。相手は慰めのないところで悲しんでいるにもかかわらず、私たちはすぐに慰めを求めてしまいがちです。安易な慰めに逃げようとしているのは私たち自身かもしれない。深い「沈黙」の中で、自分の無力さを感じながらも相手と一緒にそこに留まり続けることが求められているのです。最後の「いっしょにいる」を私は「相手と息を合わせる」という意味で理解しています。聖書でspiritは「息」とも「霊」とも

も「風」とも訳されますが、スピリチュアルケアとは実は「神の息によるケア」でもあります。「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」(ローマ12・15)と聖書にあります。喜ぶ者には喜びの息があり悲しむ者には悲しみの呼吸がある。呼吸を意識しながら向かい合う相手と息を合わせ、私たちは悲しみの中に降り立って一緒にいるのです。慰めながらのこの「か・え・な・い・心」を大切にしながら、今ここを生きてゆきたいと願っています。

第5回つるつる法人会 連日全体研修会報告

石倉智史 (つるつるホーム常務理事)

8月21日〜22日、大阪教会を会場に標記研修会が行われました。過去4回の研修会においては、日本におけるキリストの福音理解からはじまり、私たちのミッションについての学びを深め、それをどのよう将来へ繋げていくかを共有してきました。今回は日本で起こっている様々な社会的状況から、法人会のそれぞれ

の事業を取り巻く環境の変化を知り、将来予測を立てるための気づきを得るため、「30年後の日本に必要とされる『私たちの働き』とは」というテーマにより開催しました。

1日目、開会礼拝の後、社会福祉法人慈愛園の潮谷義子理事長より「歴史にピリオッドとエポックがある―未来の鍵を求めて―」との講演をいただきました。

スコアカードの4つの視点(財務の視点、事業対象者の視点、業務プロセスの視点、人材と組織の成長の視点)について検討し、目標に向けて進むべき道筋を確認し、それぞれ発表しました。時間的な制約もありましたが、参加者全員が真剣に自分たちの事業の将来や法人会連合の可能性について話し合いました。

2日目は、法人会連合の視点から新しいグループを作り、今回のテーマ「30年後に必要なとされる事業となるために」を目標として、「戦略マップ」の作成に取り組みました。手法としては、バランス

2日目は、法人会連合の視点から新しいグループを作り、今回のテーマ「30年後に必要なとされる事業となるために」を目標として、「戦略マップ」の作成に取り組みました。手法としては、バランス

今回は63名の参加者(講演会には84名)が与えら



社会福祉法人慈愛園の潮谷義子理事長による講演



グループで戦略マップを作る

全国青年バイブル キャンプ報告

竹田大地



8月20日から22日の3日間、東京三鷹の神学校を会場にして第6回全国青年バイブルキャンプが開催されました。今年は3名と参加者は少なかつたものの充実したプログラムとなりました。

キリスト者としてどのようにに心え、歩んでいくかというのをメッセージにしました。三者二様のメッセージとなり、同じ言葉から聴いても、神が豊かにその言葉に恵みを顕してくださっていることを参加者は味わう機会となりました。

今年、森優先生の著書『だれにでもできる楽しい聖書研究法―聖書研究の手引き』を参考図書にして、み言葉から神様の心を受け取り、メッセージにするというところにチャレンジしました。

青年たちが教会において教会学校、礼拝での証言などの奉仕をするにあたって、その方法の一つとして学びを深めました。また、TNGのルーテルこどもキャンプ、春の全国ティーンズキャンプ、各教区の夏のキャンプなどでスタッフを担うにあたって、み言葉との向き合い方を学ぶことにより、リーダーとしてのプログラムのスタッフとしての働きの助けになると考えています。

参加者は、与えられているみ言葉を、黙想を通して心を受け取り、そこから

TNGの最終段階であるユース部門は、青年たちが教会の奉仕者として成長することの一助となるようにプログラムを立案、実施しています。教会では青年の働きが期待されています。しかしながら、そのような中でどのように働けばいいのかわからないという声を聞きます。手法や教会組織について何も知らずにいる青年が多いというのが現状です。青年が、各教会の宣教の一翼を担う人材として成長できるようにTNGユース部門として支えていければと考えています。どうぞそのために皆さんの教会の青年を送り出してください。これからもご一緒に教会成長、宣教を担いあつていければと考えています。最後に、皆さまのお祈り、お支えをこの場を借りて心より感謝申し上げます。

西日本豪雨災害の現場から

西教区書記 水原一郎

「生きるも地獄、死ぬも地獄じゃねえ」。7月13日



呉市安浦町での作業

海路2時間で広島湾の瀬戸を越え、呉市安浦町の被災宅に入ることが出来ました。外の街道は未だ泥水が流れる状況でした。被災家屋内は、水こそ引けど「泥の海」状態でした。作業中、緊急アラームが携帯電話を持参していた幸ての人の

胸元から響きました。背筋が凍り、足が震え、作業の手を止め、携帯を開いて速報を見ました。呉市が近郊での「避難指示(緊急)/土砂崩れ」を発令してしました。被災宅の方も通知を見、嘆きながら叫ばれた言葉が冒頭のものです。

初動情報収集から支援活動をさせて頂いています。加えて、日本福音ルーテル教会はもとより、アメリカ福音ルーテル教会、日本ルーテル教会、西日本福音ルーテル教会、九州ルーテル学院高校、ルーテル学院大学の方にもボランティア協力を頂きました。

7月上旬、梅雨前線と台風による長雨は「西日本豪雨」と名を変え、歴史に名を刻み、各地につめ跡を残しました。安浦町の山裾では今も文字通りの「つめ跡」が目視できます。松本義宣西教区長長の指示によつて、日本福音ルーテル教会西教区は7月7日の

上記団体を含む皆さま、私たちは皆さまの祈りの事実として働いているだけのものに過ぎません。教会関係者として安浦町に来られたボランティアの方々のご助力で、大正中期建築、広大な敷地と間取りの被災宅は徐々に整えられていきました。九州教区や「わかちあいプロジエクト」からの高圧洗浄機は、浸水家具の洗浄や目詰まりした道路清掃に役立ちました。7月下旬からは、被災宅を中心としたその周辺宅にもお声掛けさせて頂き、給水や泥上げ支援など、必要とされてい

るごの手伝いをさせて頂いています。当初支援の被災宅では今も整理が進められていますが、生活復旧に向けた取り込みも少しずつ始められています。一方で被災宅の方は、今後も住まわれることになる安浦町のために何か出来ないかという思いもお持ちのように見受けられます。また安浦町では、特に山間部を中心に「ほぼ手付かず」のお宅が8月下旬でも見受けられましたし、さまざまなお事情で支援の申し出自体をためらっておられる方も見受けられます。

日本聖公会とのエキクメニカルキャンプ報告

宗教改革500年を記念し、ルーテル世界連盟と世界の聖公会とが共に祈ることを目指し、黙想集『神の恵みによる解放』が作成されました(本紙6月号、7月号に掲載)。8月19~21日、この黙想集を実際に用いて集う機会を持ち、スタッフを含めて両教会から青年層を中心に12名が集いました。信州の森の中で語り合い、賛美し、食卓を囲み、毎日聖餐を分かち合う、豊かな祈りの交わりを過ごしました。ルーテルの参加

者から寄せられた感想をお分かちします。●エキクメニカルに関連する活動に参加するのは初めてでしたが、クリスマスチャンというバックグラウンドを共有するせいか、初対面の方々にもどこか親戚に感じるような親近感があり、共に喜びを分かち合つて有意義な時間を過ごすことができました。日々の喧騒から離れた、自然の中で心静かに聖書を味わい、神様と向き合う時間も持つことができ、たことも収穫だったと思います。このひと時を守り祝福してくださいと神様に感謝します。(江浦瑛子)

●緑豊かな中、神と、御言葉と向き合った後、ペアの相手と語り合いました。自分一人では辿り着くことの出来ない新たな気づきがあり、祈りが豊かにされました。私は「神の愛を伝える者」として歩みたい」と改めて決心しました。繰り返し御言葉や祈りから神の愛と力を頂き、歩んでいかなければと考えます。印象的だったのは聖餐式、一つの杯から共にぶどう酒を受けました。教派を超え

て一つとされる神の愛の働きを感じました。神に繋げられる働きがこれからも豊かに与えられるようにと祈ります。(小石澤麻美)

●3日間のキャンプで聖公会やルーテル教会の方々や礼拝・聖餐式・祈り・語り合いの時間を過ごしました。聖公会の祈り書からの祈り、過度な抑揚をつけない聖書朗読、一方でルーテルの歌う箇所が多い礼拝と、初めて触れるものも多く、それぞれの教会の伝統や考え方を少し垣間見たように思います。加えて、日々の生活の中であまり無かった黙想の時もあり、神様からの恵みを感じ、キリスト者として遣わされていくことを再認識する機会となりました。(杉山彰教)



ポスタープレゼント

宗教改革500年記念事業の際に作成されたポスターを差し上げます。

一般の方々にルターとルーテルの関係を示し、宗教改革の始まりから500年を告げる目的でバナーの設置に協力いただきました。また、それを設置した様子を撮影した写真をお送りいただき、それをういてひとつの木に連なる私たちであることを表現するポスター①を作成し配布しました。多めに作成したこともあり在庫があります。教会・施設、個人を問わず、ご希望の方に送料実費にてプレゼントします。

また、長崎で行われたローマ・カトリック教会との共同記念のポスター②も差し上げることができます。事務局へお申し込みください。在庫がなくなり次第、配布を終了いたします。



①



②



倉敷市真備町での作業



呉市安浦町の被災住宅

北海道での地震災害と連帯献金について



事務局長 滝田浩之

9月6日に震度7を記録した北海道胆振東部地震とそれによる大停電により、大きな被害が生じました。被害に遭われた方々のご苦労とお悲しみに、心よりお見舞い申し上げ、主の慰めと励ましをお祈りいたします。また復旧のために尽力する方々も主のみ腕に支えられますように。

幸いにも北海道特別教区の全ての教会(帯広教会/池田・帯広・釧路札幌教会/札幌・札幌北・新札幌・函館教会、恵み野教会)とめぐえ幼稚園、そこに連なる方々に甚大な被害が及ぶことはありませんでした。日本ルーテル教団の諸教会も無事であったとのこと。当教会の各礼拝堂の停電は9月8日夕方までにはすべて解消され、「多少の不便はあっても、いつもの場所です」との時間にそれぞれ礼拝の恵みを分かち合う事ができたとの、嬉しい報告がありました。(岡田薫教区長) 電話などで安否確認はできていても、顔と顔を

合わせての礼拝の交わりに大いに力づけられる時とされたとのこと。尚、恵み野教会(恵庭市)で9月8日に予定されていた教会バザーは9月29日に延期しての開催となりました。7月以降、西教区西中国地区の牧師と信徒を中心に支援活動を開始し、「豪雨被災者支援」募金による連帯を呼びかけ、皆様のお祈りとご協力を頂いてきました。感謝いたします。9月8日現在で、570万5224円の連帯献金が寄せられました。

この度の北海道での大地震を受け、教区長会において協議がなされ、西教区での活動の継続的な支援と北海道の地震による被災者の支援活動への支援として重ねてのご協力を呼びかけることとなりました。寄せられた募金に残余が発生した場合、今後の災害緊急支援に使わせていただきます。

他銀行からの振込の場合(口座名義は同じです) ゆうちよ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)支店 当座預金 口座番号 0071734 振替用紙に「被災者支援」と記入してください。



恵み野教会 集会室での礼拝



帯広教会池田礼拝堂での礼拝

「援」と記入もしくはネット送金の際には、お名前が続いて、カタカナでサイガイと記入してください。恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

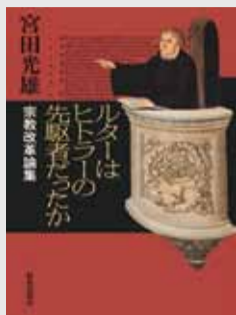
と二緒に過ごして下さるスタッフを募集します。募集スタッフは、リーダー、オーディオ、マネジメント、賛美です。オーディオ キャンプのプログラムを支えるスライドの作成や機材管理をします。パソコンが使える人、カメラが得意な人、編集に興味のある人など。マネジメント 裏方としてキャンプの運営に関わります。賛美 楽器の演奏や歌、賛美を導きます。

募集条件 1. 前日準備日とキャンプ3日間の全日程に参加できること。 2. リーダーについては、20歳以上の受洗・堅信者であること。 申し込み 下記①⑥についてすべて記入し、メールで申し込んでください。 申し込み先 harukyamoujikomi@gmail.com (永豆) 締切 2018年12月2日必着 注意事項 なお、キャンパーへの影響を考え、キャンプ中や引率時の喫煙は控えてください。 主催 宣教室 TNG委員会 ティーンズ部門、北海道特別教区、東教区、東海教区、西教区、九州教区 協賛 日本福音ルーテル社団

ブックレビュー

『ルターはヒトラーの先駆者だったかー宗教改革論集』 (宮田光雄著/新教出版)

「神の寛容」沼崎 勇



著者によれば、宗教改革500年記念をめぐって、近來、再燃してきたのは、ナチズムに対するマルティン・ルターのユダヤ人文学の影響という問題である。特に批判されているのは、晩年の著作『ユダヤ人とその虚言について』(1543年)である。ルターは、

この文書の中で、領主に對して、ユダヤ教の会堂や学校を焼き、住居を壊し、祈祷書を取り上げ、ラビに教えることを禁じ、領内から追放せよ、と訴えていた。しかも、領主が行動を起こさない場合には、牧師たちが自身が必要な対処をとるように求めていたのだ。

哲学者のカール・ヤスパースは、すでに1950年代初めに、こう記していた。「ヒトラーが実行したことはルターが勧告していた通りだった、ガスかまどで直接に殺害することを別にすれば」と。実際、ナチ主義者たちは、ルターのユダヤ人文学の言葉を、ユダヤ人迫害の正当化のために援用したのである(245~251頁)。

しかし著者は、ルターのユダヤ教批判を、ルター自身の信仰義認論から読み直す。そして、「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」(ローマ3・28)というパウロの言葉を解説した論文(1536年)の中で、ルターが「神の寛容」という言葉を用いていることに注目する。

「理解し難い神の寛容と知恵」と呼んでいる。この圧倒的な恩恵は、すでにわれわれが神の『敵であったときさえ』(ローマ5・10) 妥当するとされている……。してみれば、ルターの信仰義認論がユダヤ人を適用外として除外することは本来ありえないはずである(259頁)。ルターはヒトラーの先駆者ではない、という著者の結論に、私たちは同意する。

春の全国 Teens キャンプ

2019 in 千葉 スタッフ募集のお知らせ

来年度の春の全国ティーンズキャンプは、2019年3月26(火)~28日(木)に千葉市長年郡長柄町にある「千葉市少年自然の家」にて開催されます。 3月25日(月)に現地で行われる前日準備日と、春キャンプの2泊3日に参加者

①名前、教会名、応募について承諾を受けた所属教会牧師名 ②受洗日、堅信日(未受洗者は未受洗と書く)

【訂正】 本紙2018年9月号の4面の記事に字句の誤りがありましたので、お詫言いつて訂正いたします。 諸委員覧 派遣理事 日本福音ルーテル社団の「森博司」は正しくは「松岡俊郎」です。 TNG委員会幼児部門の「村田拓巳」は、正しくは「村田真幸」です。 ティアコラセセミナー講師の「上村真幸」は、正しくは「村上真幸」です。 広報室